

ホームページ制作屋さんのサイトはコチラ!

https://web-love-web.com/







#### TOPICS 今月の一枚 春色のお雛様

#### センター内にも春の訪れ

三月三日は雛祭り。女の子の健やかな成長を願うこの行事は、古くは「上巳の 節句」といい、災いや病を払う風習がありました。かたしろを川に流す流し雛は その名残。そしてお人形にはお守りの意味が込められています。

そんな雛祭りの起源に思いを馳せ、職員が心を込めて雛人形を折りました。 桃の花に囲まれてほんのり春色のお雛様は、正面玄関を入ってすぐのカフェの 隣に飾られています。







皆さんとともに大阪南の地域医療を支える広報誌

#### 2021年 3月号 No.7

### 独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター National Hospital Organization Osaka Miami Medical Center

診療科 N ○ W 呼吸器内科



## 慢性肺気腫で重要なのは

呼吸器内科 呼吸器内科部長、呼吸器内科医長(併)

# 持続治療と生活改善を支えること

山本





「呼吸器内科」ではウィルス性肺炎、間質性 やびらん性の肺疾患、慢性呼吸器不全、難治 性咳嗽など多くの疾患を受け持っています が、地域性として高齢化の進んでいることも あり、特に慢性肺気腫(COPD)の患者さんが 多い傾向にあります。最大の原因は喫煙で、 社会的に禁煙が推奨された頃にはすでに肺 が傷んでいて、入退院を繰り返しておられる 方も少なくありません。進行がゆっくりで初 期は自覚症状が乏しいため未診断・未診療の 割合も高いのが課題。開業医の先生方には、 喫煙歴があり、今まで感じたことのない息切 れ、特に階段の昇降時の息切れや、咳・痰が続 くという症状のある患者さんがおられ、診断 などに迷われましたら、ぜひ当センターにご 相談いただければと思います。初期ですと肺 機能検査で診断が付きますし、こちらで治療 の必要がある場合も、かかりつけの先生との 密な連携を大事にしたいと考えています。

### 吸入の継続こそ治療の基本

慢性肺気腫の治療では、主に3つの吸入 剤を重症度に応じて使い分けるのが基本 ですが、この吸入剤がここ20年の間に大変 よくなりました。いずれも少量で肺に作用 しますので即効性があり、効果も長時間 持続します。また飲み薬に比べ副作用も 抑えられます。

そこで大事になってくるのは、患者さん ご自身できちんと続けていただくこと。 吸入器は持ち運びもでき便利ですが、どう しても作業が多くて面倒になってしまわれ ます。しかし、元気になったと思っても放って おくと必ず症状が現れ、肺に負担となって 悪化の度合いを進めてしまいます。主治医 は、そういう指導、あるいは禁煙や風邪予防 の重要性をきちんと伝えることが大事で しょう。さらに私としては、楽しみながら 散歩するのも有効であることを広く患者 さんに知ってほしいと思っています。

### リハビリ入院にも力を入れる

当科では「リハビリ入院」も重要視して います。慢性肺気腫はいわゆる肺が老化す

る病気ですから、肺の周 りの筋肉も弱く、十分に 肺を開くことができず息 切れが起こります。リハ ビリ入院では、体や栄養 の状態をチェックし、 個々の患者さんに応じて 胸の筋肉を強化する運動 や生活の指導を行ってい ます。1回12日ですが、やは



り継続して定期的に入院していただくのが 望ましいですね。

COPDを含む呼吸器疾患は安定した 状態を長く持続させるのが目的です。その ためにも私は、患者さんの話を丁寧に聞き、 「症状の変化を決して見逃さない」という 姿勢でいつも治療に臨んでいます。



進化する免疫療法を有効に活用し

# 患者さんごとに最善の肺がん治療を

呼吸器腫瘍内科 呼吸器腫瘍内科医長・がん研究室長(併)・ がんゲノム医療推進室長(併)

慶太



「呼吸器腫瘍内科の動画はこちら」

# 免疫療法は近年、 飛躍的に発展

#### 「呼吸器腫瘍内科」は、大阪南部の呼吸器腫瘍 疾患を担う診療科として肺がんはもちろん、 原発不明がんに対する化学療法や放射線 化学療法を行っています。化学療法のうち 免疫チェックポイント阻害薬を用いる「免疫 療法」は、オプジーボのように新しい薬の 登場などで21世紀に入り飛躍的に進化しま した。私は当センターにおいてがん全般に

今、免疫療法によって肺がん患者さんの 5年生存率は大幅にアップしています。特に 当診療科では肺がん患者さんの高齢化が 進んでおり、QOLも考え早期での段階でも手術 以外に放射線治療を検討したり、化学療法を 行う場合も工夫をしながら行っています。

対する免疫療法の導入にも関わっています。

# 副作用のコントロールも万全に

免疫療法はその名の通り、人間が本来 持っている免疫力に働きかけてがん細胞 を攻撃する力を高める治療ですので、従来 の抗がん剤に比べて副作用の少ないのも



メリットです。さらに当院では、外来化学療 法室の看護師、抗がん剤の知識を専門に持っ ている薬剤師、そして私たち医師が有害事象 (副作用)のマネジメントチームを作ってお り、副作用の兆候のある場合には主治医への アドバイスなどを行っています。また患者さ んご自身に体のことをよく理解していただ けるよう、日記のようにチェックシートを記 入する取り組みも採用しています。

# 早期発見のため さらなる連携を

現在、がんの性質により、種類の違う免疫 チェックポイント阻害薬を組み合わせたり、 他の抗がん剤や分子標的薬あるいは放射線 治療との併用が基本です。その使い方や副作 用のコントロール方法がわかってきている ことに加え、免疫療法はさらに研究開発が 進んでいます。手術と免疫療法の組み合わせ についても近い将来、しっかりとしたデータ が示されることでしょう。5年頑張れば次の 治療法が出てくる期待があり、私自身も積極的 に他施設共同の臨床試験に参加しています。

しかしながら、自己免疫にアプローチしま すので、やはり元気なほうが効果の上がり やすいことはいうまでもありません。この 意味でも、昨年秋頃から、体調が悪くなり 救急受診されて、かなり進行した肺がんが 見つかるケースが増えた印象があります。 新型コロナ感染拡大の影響により病院・検診 の受診控えの影響があることを懸念して おり検診は定期的に受診していただき、 異常を指摘されたときは様子を見ず精密 検査を受けていただきたいと思います。

#### TEAM 紹介 医療工学室(MEセンター)



## 医療機器のスペシャリストとして

# 患者さんに寄り添う

中西



「医学工学室の動画はこちら

## コンピューターによる 一元管理を採用

主任臨床丁学技士

医療工学室には、手術部長を室長に臨床工 学技士8名が常勤。医師の指示のもと人工呼吸 器、人工心肺装置などの生命維持管理装置を 操作したり、そのほかさまざまな医療機器の 保守点検、貸し出しなどを一括して行ってい ます。特徴は医療工学室で中央管理している およそ500台を含む約6000台の医療機器を コンピューターで一元管理していること。 病棟より返却された機器の清掃や消毒、点検、 そして必要に応じて修理をし、コンピューター に登録することで、常に保守点検の済んだ 安全・安心の医療機器が提供できるわけです。



さらにスタッフがローテーションで病棟を 担当していることも特徴といえるでしょう。 限られた人材を有効に生かすことはもち ろんですが、あらゆる現場においてコミュニ ケーション能力を発揮し、冷静に的確に対応 できる力を養うことを目的としています。それ はスタッフの仕事におけるモチベーション にもつながり、同センターは大変うまく機能 していると実感しています。

# 常に患者さんのことを 第一に考える

近年、医療機器は格段に進化しました。 たとえば心電図は自動で高精度の解析を 行い、人工透析装置はボタンひとつで血液 を患者さんの体内に戻します。自動化は医 療従事者の助けとなり患者さんにはより 高い安全を提供するものですが、患者さん の命を救うためには、医療機器を使用して いる患者さんの状態と、医療機器の両方の チェックが必要なことはいうまでもあり ません。私たち臨床工学技士は医療機器の スペシャリストとして医療機器の面から



患者さんのサポートにあたっています。また 透析室などでは患者さんと長い時間接す ることもあり、そのようなときはなるべく リラックスしていただけるような環境作り を大事にしています。

どのような症状の患者さんであっても、 少しでもストレスのない治療をしていただ けるよう、私たちは誠心誠意仕事と向き 合っています。